

広島市の幼稚園が経営する英語教室で幼児から高校生までの英会話・英語の指導。
また、ハンディキャップのある子どもたちが通う放課後児童ディケアでの英語指導。
広島市内の複数の小学校で英語指導アシスタントとして活躍中。
J-SHINE上級指導者資格取得者。



須賀陽子 さん



J-SHINE 通信

2017年7月号

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

2001年に友人宅に短期滞在していたアメリカの青年が友人の3年生の子どもさんの学年と交流する際に、通訳として小学校を訪問したことがきっかけで、翌年校長先生から4年生～6年生までの各クラスを月1回英語指導してほしいとの要望がありました。私自身高校での留学後、大学の頃から中・高校生の英語学習や小学生の英会話などを自宅で家庭教師をしておりましたが、団体を教えるのは初めてで、自分でカリキュラムを考え小学校での指導を始めました。子供たちと楽しく45分できる時もあれば、学級崩壊ぎみのざわざわしたクラスもあり、試行錯誤しながら指導をしておりました。2004年にJ-SHINEの小学校英語指導者資格の事を知り、アルク児童英語教師養成コースを受講して小学校英語指導者資格を取得しました。カリキュラムの立て方など色々な学びをすることができました。その後ご縁のあった校長先生が他の校長先生方に声をかけてくださり、訪問する学校が増え5校の小学校での英語指導を行って来ました。

2008年、広島市では英語特区として5年生、6年生への広島市独自のカリキュラムが始まるとのことで、学校の先生方の勧めもあり英語指導アシスタントへ応募し合格して現在まで英語指導アシスタントとして2校の小学校へ非常勤講師として勤務しております。

5年前に必要な指導時間数に達していたこともあり、上級指導資格取得のための申請手続きをし、資格を習得することができました。

■ 現在の活動状況

5年生、6年生の英語指導アシスタントとしての非常勤講師の仕事は各クラス週1回、年間35回(上限38回)です。広島型カリキュラムは5年から中学3年までの長い期間として計画され、小学校での目標は「英語による活動を通して、言語や文化に対する興味・関心を高め、英語を聞いたり話したりする力の基礎を

養うとともに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」事です。

広島市独自のカリキュラムの指導書を元に担任の先生とのチームティーチングで指導していきますので、担任の先生との打ち合わせはとても重要です。その日の授業の反省や個々の児童の事、次回の授業の流れや何を大切に指導するかなど担任の先生との意見交換に時間を十分取りたいところですが、日々忙しいので限られた時間を大切に打ち合わせしております。授業では私は英語のみで指導し、担任の先生は子どもたちが理解できているかを見ながら進めていきます。毎回授業の最後に児童は授業の感想・気づき・質問などを振り返りカードに書き、児童の授業の理解度を確認するようにしています。

年に最大9回ALTとの授業があり、ALTの方とのレッスン内容や役割分担の打ち合わせを事前に行い、3人(ALT、担任の先生と英語指導アシスタント)で普段の授業とはまた違うネイティブスピーカーの持ち味を活かした楽しい授業になるように工夫しています。

広島型英語指導カリキュラムに沿っての5年生6年生の授業以外に、以前からおこなっています1年生から4年生までの児童への英語指導も引き続き校長先生からの依頼で学校によって月1回



や年に数回など様々ですが、現在は3校で行っております。低学年での指導はチームティーチングではないので、以前のように自分で組み立てたカリキュラムで行い、5年生6年生になった時に広島型のカリキュラムに結びつけられるように工夫しています。1年生から4年生の子どもたちはとても英語授業を楽しみにしてくれており、目を輝かせて英語をリピートする姿は嬉しいものです。授業以外で子どもたちに出会う時は英語で声をかけるようにしています。今では子どもたちも私には英語で話しかけてくれますし、ALTが来校された時の授業は5年生6年生ですが、物怖じせずに接し、中学年の子どもたちが英語で話しかけているのはとても微笑ましい光景です。もちろん5年生、6年生の子どもたちも授業以外でもALTや私に英語で声をかけています。



■ 今後の展望、課題、目標

5年生になり毎週の広島型カリキュラムの英語授業がスタートし、今まで英語に接していない（低、中学年で英語指導がない学校）場合、最初は手が上がらなかったり小さな声でしかリピートができないような自信のない子供たちが少しずつ、大きな声でリピートするようになったり、コミュニケーション活動でゲームをしている時に積極的に動くようになってきたり、振り返りカードに英語は難しいと書いていた子供が英語は楽しいとか、色々な疑問を書いてくれたりと、子供たちの成長を英語を通じて一緒に体験できることはとても尊いことだと思っていますし、やりがいを感じています。

引き続き子どもたちが英語を楽しみながら積極的に会話していけるように工夫しながら指導していくと共に、やはり苦手意識のある子どもたちにも英語の授業は（他の授業もそうでしょうが）間違ってもいいんだよ！と伝えています。

「こんな英語の音が聞こえてきた」、「こんな意味だと思った」、と子どもたちが答えた時、それが間違っていたとしてもそれを発表できたことがすごいんだよ！と、どの子どもも物怖じせずに発表ができ、英語で会話ができるようにしていきたいと思っています。担任の先生方も同じ思いで授業に臨んでおられます。

2020年には高学年の英語教科化や3年生、4年生にも英語活動が入ってくるようですが、小学校英語指導者の需要はますます増え、その役割も大きくなることでしょう。英語の指導研修など、担任の先生方の負担がより重くなるのではないかと心配はありますが、英語を積極的に使ってコミュニケーションしていける土台を作る小学校での英語指導はとても素晴らしいものだと思います。多くの方がJ-SHINEの資格を取得され、小学校で活躍されることを願っています。



* J-SHINE 通信 Web ページ

この2017年7月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>

今月の花 あさがお